

いわて花巻空港への台湾国際定期便就航に関する取組について

1 経緯

- (1) 岩手県と台湾は、後藤新平、新渡戸稲造などの先人による交流に加え、近年ではチャーター便による多くの台湾観光客の来県などの観光交流が進んでいる。さらに、東日本大震災津波の際には台湾からの多大な支援を頂いた。
- (2) 近年、世界的なオープンスカイの進展などにより、自治体が航空会社と直接交渉し、地方空港からの国際定期便就航の機会が増加している。
- (3) そこで、本県も、これまでの国際チャーター便の実績などから台湾中華航空に対するセールスを強化し、本年4月に、知事から中華航空会長に対し国際定期便の就航を要請した。
- (4) それを受け、9月には会長が来県し、いわて花巻空港や県内観光地などを視察した。その際、会長から知事に対し、国際定期便に向けた様々な取組に関する提案がなされた。また、国際定期便就航に向けた課題（アウトバウンドでの送客、空港施設面等）についても触れられた。

2 国際定期便就航による効果

- (1) いわて花巻空港から台湾への国際定期便就航が実現すれば、地元の空港から世界へダイレクトに繋がること（台湾のみならず台湾乗継により世界28ヶ国、119都市）となり、県民の利便性が飛躍的に向上する。
- (2) これにより岩手から海外への往来が容易となり、経済・文化等の国際交流の促進、外国人観光客の年間を通じた誘客促進、I L C誘致に向けた利便性向上のアピール、県内企業の海外企業との取引機会の拡大など、本県への多大な経済効果が期待される。

3 今後の取組

- (1) 就航先としての台湾の魅力を広く県民に周知し、台湾へのアウトバウンド需要を喚起していくこと。
- (2) 加えて、台湾との積極的な交流拡大に向けての各団体への呼びかけや、台湾との相互交流の拡大やいわて花巻空港における国際定期便就航に向けての県内における機運醸成などを通じて、台湾との定期便就航に向けた取組を進めていくこと。
- (3) 各市町村においては、先人から続いてきた台湾との交流、特に東日本大震災津波での義援金等の多大な支援を頂いた経緯などもあることから、今後、台湾との交流人口拡大に向けて取り組んで頂くことなどをご検討頂きたい。